



「目と耳と心を使って 音のキャッチボール 心のキャッチボールをしよう」

『今週は音楽会です。今、私たちは朝早く学校に来て、太鼓の練習をしています。みなさんも力を合わせて、音楽会を成功させましょう。朝のあいさつをします。お早うございます。』（おはようございます）

いま、6年生のお話にもありましたが、今週は音楽会です。

そこで、今日は「目と耳と心を使って、音のキャッチボール、心のキャッチボールをしよう。」という話をします。

今、校舎の中を歩いていると、今週の音楽会の練習で、いろいろな学年の素敵な歌声や合奏が聞こえてきます。今できたての音楽。今できたての裏声です。

普段皆さんがテレビやCDなどでできている音楽は、もう出来あがっているもの、皆さんは聞くだけで、創ることはできません。

でも今、桃五小で聞こえてくる、皆さんの歌声や合奏は、1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、今の今、皆さんが心を合わせて創ったものです。だから、校舎のなかを歩いていると、思わず立ち止まり、聞き入ってしまうのです。

1年生は「元気な歌声」。2年生は「楽しさが伝わってくる歌声」。3年生は「明るい歌声」。4年生は「気持ちがいずんでくるような歌声」。5年生は「爽やかな気持ちになれる歌声」。6年生は「美しい引き込まれるようなう歌声」

これは、それぞれの学年の人たちが、目で見て合わせ、耳で聞いて感じ、心で受けとめて、みんなの心、みんなの音をひとつにして創りだした歌声、演奏、なのです。

これは、みんなの『心のキャッチボール』人の声人の心を聞き、自分の声と心をそこに合わせていく。心と音を伝えあいキャッチボールのように感じ合い伝え合いながら、ひとつの歌や合奏の音楽を創っていく。

だから、本番当日にうまく演奏することももちろんですけども、それまでの毎日の練習で、やっぱり、目と、耳と、心、を使い心のキャッチボール、音のキャッチボールをしながら、学年のみんなと心をつなげて、音のたしざん、心のたしざんをたくさんしておいてほしいのです。

そして、きっとその『心のたしざんがちゃんとでき始めているから、学校のなかに流れてくる、皆さんの歌声は、聴く人の心を打つのです。

さらにもう一つ、CDやテレビと違うところは、演奏する人だけではなく、聴いている人も一緒に音楽を創っているということです。

演奏する人が心をこめて音楽を届けようとする。それを聞いている人が心をこめて

聞き、心響かせて、心のなかで応援する。その気持ちが演奏している人に伝わって
もっと素敵な演奏になる。

だから音楽会は、音と心のキャッチボールなのです。

1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、みんなが演奏する人
でもあるし、聴く人でもあります。桃五小の591人全員が心をつにしたら、素晴
らしい音楽会になりますね。みなさん、目と耳と心で、素敵な音楽会にしましょ
うね。

(はあい。の返事が戻ってきました。)

